

令和 8 年 4 月

令和 6 年度 林業従事者等確保緊急支援対策事業 外国人材林業技能確保対策
成果報告書

【事業実施主体】
YUIME 株式会社

本報告書は、林野庁の「林業従事者等確保緊急支援対策事業」の趣旨に基づき、安全な林業作業に関する技能を有する外国人材の確保に向けた「外国人材林業技能確保対策」の事業成果を取りまとめ、広く普及を図るものです。

1. 事業の背景と目的

日本の林業においては、豊富な森林資源を活用した供給力強化が求められる一方で、伐採・造林等を行う林業従事者の人手不足が深刻な課題となっています。弊社（YUIME 株式会社）はこれまで、農業分野において特定技能外国人の派遣事業を全国の産地間で展開し、常時 800 名以上の人材を雇用支援してまいりました。また、農業分野の特定技能派遣事業者コンソーシアムの事務局として「人権保護方針」の策定などを主導し、外国人材の人権や育成を重視した仕組みづくりに取り組んでいます。

本事業では、これらの多様な国籍の受け入れ実績と海外送り出し機関との連携ノウハウを活かし、安全基準を満たす質の高い林業特定技能外国人材の育成・確保体制を構築することを目指しました。

2. 事業実施内容

公募要領に基づく各事業項目について、以下の通り実施しました。

1) 現地教育機関との連絡調整等

講習実施国は、東南アジア第 2 位の森林面積を有し、特定技能制度による人材の送り出しに政府及び自治体が前向きな「インドネシア」を選定しました。事業の実施にあたっては、海外送り出し機関、および林業パートナー企業（住友林業グループ、大隅森林組合等）と連携し、カリキュラム作成や安全管理体制の構築を行いました。また、林業分野は特定技能での受け入れ実績が少ないため、就業先が見つからないリスクを考慮し、弊社の強みである「農業分野への派遣モデル」に乗せた上で、林業の研修を行う方針を採用しました。

2) 講習カリキュラム等作成

特定技能林業技能測定試験の合格水準を満たし、かつ日本の労働安全衛生法令に基づく特別教育の要件を満たすカリキュラムを作成しました。特に海外人材が視覚的かつ直感的に理解できるよう、豊富な図解スライドや実技確認用のオリジナル動画教材を開発しました。研修カリキュラムの参考資料として、次の書籍を活用致しました。[フォレストワーカー研修テキスト vol.1]

①林業の基礎と植林：

林業の目的や地拵え（全刈り・筋刈り）、苗の種類（裸苗・コンテナ苗・ポット苗）と「葉・芯・根」を用いた良い苗の見分け方、冠雪害を防ぐ正三角形植えなどの造林基礎を網羅しました。

②機械・道具：

刈払機の構造やキックバックの危険性、振動障害防止（強く握らない、連続操作時間・1日の操作時間の制限）について指導。チェーンソーについては、適切な燃料の混合割合や、エンジン始動時・持ち運び時の安全ルールを徹底しました。

③安全・その他：

危険区域の設定（刈払作業時 5m、エンジン始動時 15m）、マダニ対策、ハチへの対応（エピペン等）、熱中症予防（水分・塩分チャージ）、さらには 4S 活動（整理・整頓・清掃・清潔）や指さし呼称の基本概念を組み込みました。

④実技動画教材の開発：

特定技能試験の実技科目を見据え、必須装備を解説する「林業服装」、組み立て手順と手の怪我確認を指導する「林業組み立て」、フェイスカバー着用やブレーキ解除から一連の動作を収録した「暖機運転」などの動画を作成しました。

3) 現地講師の育成

作成したカリキュラムを基に、外国人材への指導を現地で行いました。その際、日本から有識者（日本で 15 年の林業経験を持つ元インドネシア国籍人材、大隅森林組合、住友林業アセット、YUIME 林業担当者）を派遣しました。彼らを通じて、現地外国人材への講習を直接担う「現地講師」の育成を実施し、指導水準の底上げを図りました。

4) 講習の実績と成果

現地ではスライド教材や実技動画を活用して育成し、日本国内では外部の研修機関へ依頼して講習を実施しました。途中、国内の依頼先の訓練内容が合格基準に満たない事象が発生したものの、速やかに別の研修企業へ追加の依頼を行い、リカバ

リーを図りました。また、林業技能測定試験についても、一定の合格者を出しました。

【講習の総括と YUIME の存在意義】

動画等を用いた実践的な安全教育により、日本の厳格な安全基準を満たしつつ合格水準に到達する効果的な講習体制を確立することができたと同時に、今後の日本の林業分野における外国人材確保において、弊社の育成スキームと存在が極めて大きな牽引役を果たしていることが明確に実証されました。

5) 成果のとりまとめ及び普及（「まもりびと」プロジェクト）

育成した人材が地域社会で円滑に受け入れられるための普及活動として、地域住民向けコンセプト資料「まもりびと」を作成しました。重機が入れない急斜面での「植栽」や「下刈り」は、現在も 100%人の力に頼らざるを得ません。厳しい選考を突破した若き外国人材を森の守護者「まもりびと」として位置づけ、「彼らを受け入れてください、ではなく、彼らと一緒にこの町を元気にしましょう」というメッセージとともに、共生社会の実現に向けた啓発を行いました。

3. 今後の課題と対策

本事業を通じて、継続的な外国人材確保に向けて以下の課題が浮き彫りとなりました。いずれも本年の補助事業を通じて、日本で林業の実体験を積み重ねていくことで改善が見込まれると考えております。

1) 海外における不安の払拭

林業分野における日本での受け入れ実績が少ないため、海外の送り出し機関や人材が抱く不安の解消

2) 現場環境の直感的な理解

日本の林業環境や安全対策は動画やスライドで学べるものの、実際に入国して起伏の激しい現場に入らなければ、本当の厳しさが伝わりづらい点

3) 現地講師の実務経験不足

海外で講師役を務める先生自身に「日本での林業経験」がない場合が多く、日本特有の環境や細かなニュアンスを的確に伝えることに難しさがある点

以 上